“寛永通宝” 松本銭座

<その歴史的経過と記念碑の概要>

松本市教育委員会

鋳銭に至る事情

わが国の鋳銭は、奈良時代の和銅開珎にはじまり、以後平安時代にかけて１２回あつたので、これらを皇朝１２銭といつた。

鎌倉時代以後全く鋳銭はなく、もつぱら宋銭・明銭を多量に輸入して通用した。

戦国争乱の時代を経て、天正１８年豊臣秀吉の天下統一がなると全国共通の銭貨を鋳ようとしたが実現しなかつた。

江戸時代となつて、三代将軍家光は、貨幣制度の完備をはかり、すでに改鋳していた金貨（大判・小判）銀貨に加え、最も通用量の多い銅銭の鋳造をはかつた。

この鋳造は、江戸１か所では間に合わないため、松本をはじめ全国１１か所で鋳造、急速な全国流通を計画し、地方の有力大名を撰んでこれを命じた。

鋳銭の実施

松本の城主（７万石）の松平出羽守直政は、徳川家康の孫で親藩である関係上特に撰ばれ（或は希望によるか）て鋳銭を命じられたのである。鋳銭の事業には大きな施設と多額な費用がかかるため、その請元の撰定には問題があつたが、松本町筆一の分限者で、問屋、大名主などを兼ねた倉科七郎左衛門と匹敵していた本町の使者宿をつとめる今井勘右エ門がえらばれ、実際の技術者として飯田町の三輪忠兵衛にこのことを管掌させた。今井家所蔵の文書で本文書として信用のおける今井文書には（信濃資料第２６巻所収）「勘右衛門の望みによつて二口（庄内・堀込の２箇所）の鋳銭を命じ、この二口のほかは他の人が望んでも許可しないから精出してやるように」という意味のことが書かれている。署名の者達は松平家の家臣である。ところで日付が寛永１３年１２月２７日となつているので、実際にはその翌年の着手とみなければならないのである。そうして施設準備も整い鋳銭にかかつたのは翌年も半ばのことであろう。しかも寛永１５年２月には、直政は出雲の松江１８万６千石に加増されて転任したので、あるいはこれによつて中止したか、または幕府からその使命を達して禁止令の出た寛永１８年をもつ

て中止したかは不明である。ただその期間の短かかつたことは事実である。

考　証

鋳工の三輪忠兵衛のことについては、本文書はなく、今井家先代の書留めにあるのみでその伝を欠くが、伝承資料上からはこれを信じてよいであろう。

鋳銭場は、考古学的発掘も不可能で確認できないが、植松家記録等によれば、本町５丁目の請元今井家の裏で鋳銅用の銅塊を（足尾銅であろうか）持上げて力くらべしたことが書かれているが、一説に飯田町鍋屋小路三輪忠兵衛工場との伝承がある。旧松本町全体とその付近を含めて昔は庄内といつた。堀米とは今の島立の堀米のことである。

松本銭について

世にいう松本銭については、今までも古銭研究家は、その種類を１０数種に分類し、他の銭座で分類できなかつたものを松本銭にあてたものと思われ全く信用を置けない。信ずべきものとしては、今井家旧蔵になる記念の枝銭が残つているが、これはまぎれもない古寛永で（寛永通宝は銅銭の銘柄となり江戸末期まで何回も鋳造されているので、寛永年間に実際に鋳たものと区別されている）書体その他に往時の姿がしのばれるので、これが信ずべきものであろう。なお、種類もそう多くないはずである。

建碑の銭形はその字形を模したが、大小の差で若干感じはちがつてきている。

松本銭座の意義

松本銭座の意義を領主側と一般民衆側の二つから考えてみる。松本に重要な鋳銭の場ができたのは、松平直政が徳川の連枝であり、さつそうたる青年大名で、大いに松本の新領に理想郷をつくろうとした施策の一つとみることができる。直政は、人も知る越前福井１２０万石の大々名（但江戸初期）松平秀康（家康の次子で豊臣秀吉に愛されその養子となり、のち秀頼の出生により出て関東の名家結城をつぎ、江戸幕府成立後松平姓に復す）の三男で、寛永１０年４月着任、松本城に月見櫓を造つたり、城内に六九厩を新築、筑摩神社本殿（現重要文化財）の修築をする等大いに城内外の整備につとめた。彼が銭座の一つを管理させたこと、裏には然る可き利権もあつたことと思われる。彼は寛永１５年２月１０万石の加増転任の命を受け

でも、心中喜ばなかつたことが、資料の上でもみられる請元の今井氏は松本町問屋の倉科家と常々相対し問屋職の増置を願い出していたが、倉科氏の反対により許されなかつたが、この際銭座の請負を許されてその地位を高めた。

なお、松本町や領内の経済にも種々の面でよい影響があつたことであろう。

記念碑の概要

◇ 題　字　　松本市長　降旗徳弥
◇ 撰　文　　松本市教育委員会
◇ 制　作　　上条俊介
◇ 石　匠　　吉本定昭
◇ 鋳　造　　和泉湧清
◇ 建　立　　松本市

除　幕　　昭和43年11月6日

	高サ	巾	奥行	備考
碑石	1.98m	1.32m	0.33m	岐阜産花岡岩
台石	0.33m	1.98m	0.33m	〃
額石	0.83m	0.83m	0.10m	アフリカ産黒石
ブロンズ	撰文　0.46m×0.26m 寛永通宝　直径　0.26m			
碑は古代中国の貨幣〝布貨〟をかたどつてある。				

（建碑位置 市内深志3丁目市民会館前庭）

記念碑撰文

松本銭座の記

越前大野5万石から信濃松本七万石に転じた松平出羽守直政は、寛永十三年幕府の命を受け、任地松本に銭座を設け、庄内、堀米の二箇所において寛永通宝を鋳た。

鋳銭は寛永十四年からとみられるが、同十五年二月に直政は出雲松江十八万石に転じ、同十八年には幕府から、地方鋳銭の禁止命が出されているので、この期間に中止されたものと思われる。

鋳銭の請元は松本本町の今井勘右衛門で、鋳工は飯田町の三輪忠兵衛と伝えられている。

松本銭座は寛永年間に置かれた全国十一銭座の一つで、江戸に置かれた金座や銀座と共に、江戸幕府の貨幣制度を整えるために重要な役割を果した。

昭和43年10月

松本市教育委員会